

中学生が大きく成長する 職・場・体・験

The work experience that the junior high school student grows largely

新宿区では、区立中学校11校（主に中学2年生を対象）で職場体験を実施しています。将来の社会を担う中学生が、地域の商店街や地元の民間企業、公共施設等で一定期間仕事を体験することによって、職業に対する理解を深め、社会の常識やマナー、礼儀などの社会性を身に付け、自分の将来の生き方を考えるきっかけとなるよう取り組んでいます。

職場体験を終えた生徒たちは、働くことの大変さを実感したり、人と接するときのマナーやコミュニケーションの大切さを学び、大きく成長します。

今年度も、企業・商店等地域のご協力をいただきながら、中学生にとってよりよい経験となるよう取り組んでいきます。来年2月には、職場体験を通して中学生が学んだことや感じたことを報告する「職場体験発表会」を行う予定です。

問合せ 教育指導課教育活動支援係
☎(5273)3084

お願い

職場体験受け入れのお願いは、学校ごとに行っています。近隣の中学校から依頼があった際は、趣旨をご理解いただき、ぜひご協力くださるようお願いいたします。

また、教育委員会では職場体験受け入れのリストを作成して、各学校に情報提供しています。中学生を受け入れていただける職場がありましたら、左記までご連絡ください。

牛込第一中学校では… (平成18年度の取り組み)

日程 7月11日～13日の3日間

対象 2年生全員

体験先 鉄道会社、ホテル、美容院、印刷会社、工務店、ファーストフード店、コンビニエンスストア、菓子店、専門学校、郵便局、児童館、保育園、清掃事務所、図書館 など26箇所

職場体験の流れ

- ①職場体験学習の意義を学ぶ
- ②体験先の希望調査
- ③体験先についての事前学習
- ④生徒が体験先に自己紹介カード・質問票を送付
- ⑤職場体験
- ⑥生徒からお礼の手紙を送付
- ⑦まとめとして、職場体験報告書の作成、一中祭で壁新聞の掲示発表

あかね苑（区立北山伏特別養護老人ホーム）

体験内容 1日目：食事の配膳・下膳、食器洗い、部屋・廊下の掃除
2日目：ふとん・シーツ・タオルケットの交換、食事の配膳・下膳、民謡クラブへの参加、部屋の掃除
3日目：入浴後の手洗い、食事の配膳・下膳、部屋・廊下の掃除

生徒の感想 ・食事で、1人1人に合わせたメニューや食べ物のおさがりが考えられていたり、箸やスプーンも工夫されていて、すごいと思った。
・部屋の掃除で疲れていたとき、「ありがとう。ご苦労さま」と言われて、元気が出た。「ありがとう」の言葉の力に驚いた。
・「お年寄りの体調・行動をよく見て、相手の気持ちを考え、支えることを常に心がけている」という言葉が心に残った。



ハンバーガーショップ

体験内容 1日目：お店について説明、ドリンク作り、フロアチェックなど
2日目：ドリンク作り、レジ、グリル、フライヤー、フロアチェックなど
3日目：ドリンク作り、レジ、グリル、フライヤー、フロアチェックなど

生徒の感想 ・展開の速い仕事で、本物のお客さんを相手に仕事をするのは大変なことだと思った。
・こまめな気配り、しっかり返事をする、笑顔で元気よくあいさつすることが必要だとわかった。
・仕事に対するイメージが変わった。大変だけでなく楽しいものだとも思った。



工務店

体験内容 1日目：店舗（寿司店）の解体の手伝い（壁紙はがしなど）
2日目：本棚の製作
3日目：本棚の製作、店舗（寿司店）の解体の手伝い（木材運びなど）

生徒の感想 ・「お客さんの物は、丁寧に扱い大切にするように」と教わり、今はすべての物を大切に使うよう心がけている。



未来を担うひとづくり



新宿区教育委員会
委員長
熊谷 洋一

新宿区には特別区の中で最も多い九四種類の町名が存在し、その多くが江戸時代の武家屋敷や門前町屋に由来する歴史と由緒のある名称を留めています。一方、新宿駅ターミナルの一日乗降客数は約三五〇万人で、その数は、米国第二の都市ロサンゼルスに匹敵する人口にも迫り、活発多様な都市活動が日夜繰り返されています。また区民三〇万人の一〇パーセント

の方が外国人登録をされている国際色豊かな地域でもあります。このように歴史伝統を引き継ぎながら国際的大都市機能が凝縮している新宿区の将来の為に、市民行政・企業の相互理解と協働による成熟した社会とそれを担っていく若い世代が不可欠です。また、世界はますますポータブル化が加速し、地域を超えて国を超え地球レベルで人類の平和に貢献できる人材が必要となります。「ひとづくり」すなわち「学校教育」「家庭教育」「社会教育」の役割もこれまで以上に高まっています。新宿区では、小中校全普通教室等空調設備化など教育環境を整えると同時に、「学校評議員制度」や「スク

ール・コーディネーター」など地域の皆様との連携を密にした教育を推進してきました。本年度からは、都内初認定の〇歳児から五歳児までの幼保一元化施設「四谷子ども園」も開設しました。さらに、コミュニティ・スクールの検討も始めました。これまでの伝統を踏まえながらも将来を見据えた試みも積極的に進めています。「澄んだ瞳をし、何でも吸い取ってしまふ純真な子ども」「年下をいじめたりせず常に思いやる子ども」「将来に希望を持ち年寄りを敬う子ども」がその個性を十分に生かしながら未来を担う人材として育つように尽力して参りますので、区民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

教育フォーラム開催！

「話そう！子どものこと、学校のこと」

3月27日、いろいろな立場で子どもに関わる人々が集まって、新宿の子どもたちや学校について話そうと牛込筈区民ホールで教育フォーラムを開きました。

第一部では、新宿区子どもの生き方パートナーとして活躍した乙武洋匡さんが2年間の活動を報告する基調講演を行いました。

「子どもが被害者や加害者になる事件を多く目にし、何かできないかと思いはじめました。そして、今まで自分に関わってくれた多くの方々への感謝の気持ちを次の世代である子どもたちに還元したいと思うようになったんです」と教育に強い関心を持つようになったきつかけから講演が始まりました。また、コミュニケーションのあり方が変わってきていることについて、学



校訪問で子どもたちとふれあうなかで、同じ

班の人の名前が言えない子どもがいること」に驚いたり、「クラスで手を挙げて発言しにくい雰囲気」が見られたことなどを語りました。基調講演の最後には、「最近学力低下が叫ばれているけれど、それとともに、自分の思ったことを伝えることや、他人とつながっていく」ことを大事にしてほしい」というメッセージがありました。

第二部では、乙武さん、内藤教育委員会委員長（現教育委員）、白井教育委員、川越戸塚第二小学校長、八島落合中学校校長のパネリスト5人による座談会が行われ、約1時間、客席からの発言も交えながら子どもや教育に関するさまざまな意見が出されました。「教育が直面している課題は多いけれど、学校・家庭・地域等が助け合いながら、手を取り合っ



問合せ 教育政策課企画調整係
☎(5273)3074

聞けた」「これからの教育のあり方について考えさせられた」「子どもだけでなく親への教育も必要で、保護者のコミュニケーション能力を高めることも大事だと思う」「パートナーシップを築くことの大切さを感じた」などの感想が寄せられました。教育フォーラムの報告書は、教育委員会でもご覧いただけます。

「しんじゅくの教育」編集担当では、皆様のご意見、ご感想をお待ちしています。また、新聞を購読していない等で郵送をご希望の方はご連絡ください。

問合せ 教育政策課企画調整係
☎(5273)3074